


受賞者氏名	宇津川 喬子	 赤水の滝を背景に撮影
所属	文学部 地理学科	
受賞年月日	2022 年 8 月 27 日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	日本第四紀学会	
受賞名	2022 年日本第四紀学会論文賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>受賞論文： 白井正明・宇津川喬子・渡辺万葉(2020) 赤水の滝の形成過程から考える大規模土石流が安倍川上流域の地形に与えた影響. 第四紀研究 59 巻 1 号, 17-29 頁.</p> <p>論文概要： 静岡県安倍川上流域において、1707 年宝永地震の際に発生したとされる土石流の堆積物の分布および周辺の地形を詳細に調べ、土石流堆積物が河道の狭窄部を埋積したことで基盤の尾根を越えて河道が短絡し、現存する滝の原型ができたことを明らかにした。その際、堆積物中の礫の配列(インブリケーション)から土石流が流れた河道の古流向を推定しつつ、地形断面図から当時の堆積面を捉えて地形の形成時期を考察した。また、大規模土石流が遷移したハイパーコンセントレイテッド流の堆積物の存在にも言及した。</p> <p>受賞理由： 本研究成果は同地域の地形と地質の理解を劇的に発展させただけでなく、他分野への波及効果も予想される。例えば、発見されたハイパーコンセントレイテッド流堆積物は巨大地震が誘発した大規模土石流に伴う事例として今後堆積学的研究が期待される。近い将来起こる南海トラフ地震はトラフ全域にわたってプレート間の断層破壊が起こる“宝永型”との予想もある。大谷崩による土石流が従来の見解より 2km 以上も下流へ伸びたことで、災害教訓の継承に関する調査報告書(内閣府)などは大幅な見直しとなる。さらに、同地域の地震に伴う土砂災害の研究や河川防災対策などにも影響を及ぼす。</p> <p>以上の諸点から、本論文は第四紀学の発展に大きく寄与すると期待され、本学会の論文賞にふさわしいと判断した。 (第四紀通信 29 巻 4 号 p. 11 より引用)</p> <p>調査地の様子: 赤水の滝(左方)と土石流堆積物(右方) (2013 年 9 月宇津川撮影)</p> 